

遠隔地の学校をつなぐ同期型遠隔体育の研究

研究員 安達光樹・鈴木直樹



塩崎みづほ・笠井利恵



2022年度しあわせ研究費により、遠隔地にある学校と学校をつないで行う、同期型遠隔体育を試みました。同期型遠隔体育とは、ZOOM等のコミュニケーションツールを使用して、離れた学校の子ども達と一緒に体育の学習を行うことです。

ここ数年の新型コロナウイルス感染症拡大によって、ZOOM等のコミュニケーションツールを活用したオンライン授業や、オンライン会議等が広く行われるようになりました。しかしながら、これらのオンライン授業やオンライン会議は、新型コロナウイルス感染リスクを減らすために行われていることが多く、その特性を十分に活かした積極的な活用とは言い難い面があります。

本研究で取り上げた同期型遠隔体育は、オンラインコミュニケーションツールを積極的に活用することにより、文化性の違う離れた地域の子ども達と一緒に学ぶことを可能にするものです。例えば、表現運動の学習においては、それぞれの地域の民踊を紹介し合い、画面を通して共に踊りを楽しんだり、自分達の居住する地域の文化を表現で伝え合ったりする等の活動を行うこと

が期待されます。このことにより、学校から出ることなく、他地域の子ども達と共に学び、お互いの文化に触れることが可能になります。

本研究では、表現運動系及びダンス領域の専門家1名と新潟市と鹿児島市の小学校の教師各1名の合計3名が協働で低学年の表現リズム遊びの2時間の単元を計画・実施しました。授業の前半は専門家が一斉学習的にオンラインで指導を行い、後半は新潟市と鹿児島市の学校の児童でオンラインのグループ学習を行いました。

本研究により、オンラインならではの子ども達の学びが見られたことに加えて、専門家との協働による授業実践が教師の学びに対する認識変容を促すことが明らかになりました。このことは、これまでの教員研修のあり方に、新たな形を示すことを示唆していると考えられます。さらに、離れた場所にあっても実現可能な本実践は、教員研修の距離的・時間的な問題を解決することにつながると思われます。

情報通信技術の進歩により、学校間をオンラインで繋ぐ学習は、今後ますます広まっていくことが期待されます。体育授業におけるオンラインコミュニケーションツールの使用が補完的なものではなく、より学習を深めるためのツールになるよう、今後も研究を進めてまいります。